

令和2年度 スポーツ庁委託事業

「Special プロジェクト2020」



(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの
拠点づくり事業)

滋賀県の取組について 【パラスポーツチャレンジプロジェクト】



湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

滋賀県文化スポーツ部スポーツ課
競技力向上対策室
(R3年度より競技力向上対策課)



1 事業概要

(1) 課題と背景

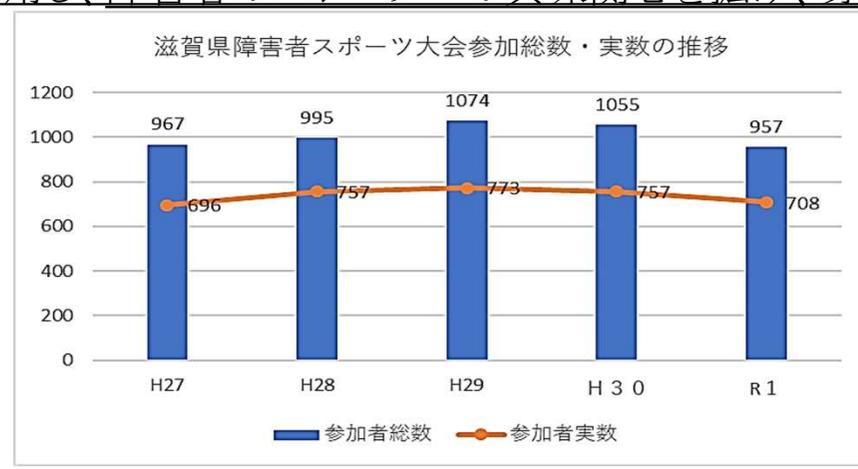
障害者にとってのスポーツ環境は、障害者のスポーツ実施率が健常者に比べて低いことからもうかがえるとおり十分とは言えず、スポーツ大会の開催を機会に、障害者のスポーツ環境をより整える必要がある。

本県においては、

- ・ **県障害者スポーツ大会参加者数の減少（選手の高齢化等）**
- ・ **卒業後に、気軽にスポーツができる環境づくり**
- ・ **障害者スポーツを支援するスタッフの獲得** などの課題がある。

しかし、

2025年に本県で開催される「全国障害者スポーツ大会」の開催に向け、県民のスポーツの機運が高まる機会を活用し、障害者のスポーツへの興味関心を広げ、身近にスポーツに親しむことができる環境を整備する。



* 参考【県大会参加者総数・実数の推移】

(単位:人)

内訳		年度	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
参加者 実数	目標値		—	—	800	820	840
	結果		696	757(+61)	773(+16)	757(Δ16)	708(Δ49)
参加者総数			967	995(+28)	1,074(+79)	1,055(Δ19)	957(Δ98)



パラスポーツチャレンジプロジェクト



2 事業実施の目的

事業名	目的	内容	活動場所	委託先
特別支援学校等活用	特別支援学校の体育施設を活用し、 <u>在校生、近隣住民の交流の機会を創出</u> する。	障害児・者を対象とした <u>軽スポーツ教室</u> の実施 * スポーツ庁委託事業	県立三雲養護学校	(公財) 湖南省文化体育振興事業団
団体チーム創出	これまで滋賀県内になかった全国障害者スポーツ大会の団体種目のチーム創出をめざす。	知的障害者のバレーボール教室の実施	・湖南省総合体育館 ・県立三雲養護学校	(公財) 湖南省文化体育振興事業団
大学連携	大学と地域の特別支援学校等との連携をすすめ、専門的な助言、指導体制を構築するとともに、地域に開かれたスポーツ活動の場を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、特別支援学校の陸上競技、バスケットボール部への指導者派遣 ・ 障害者スポーツに関するイベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立草津養護学校 ・ 立命館大学(BKC) 県立愛知高等養護学校	立命館大学(BKC) 聖泉大学

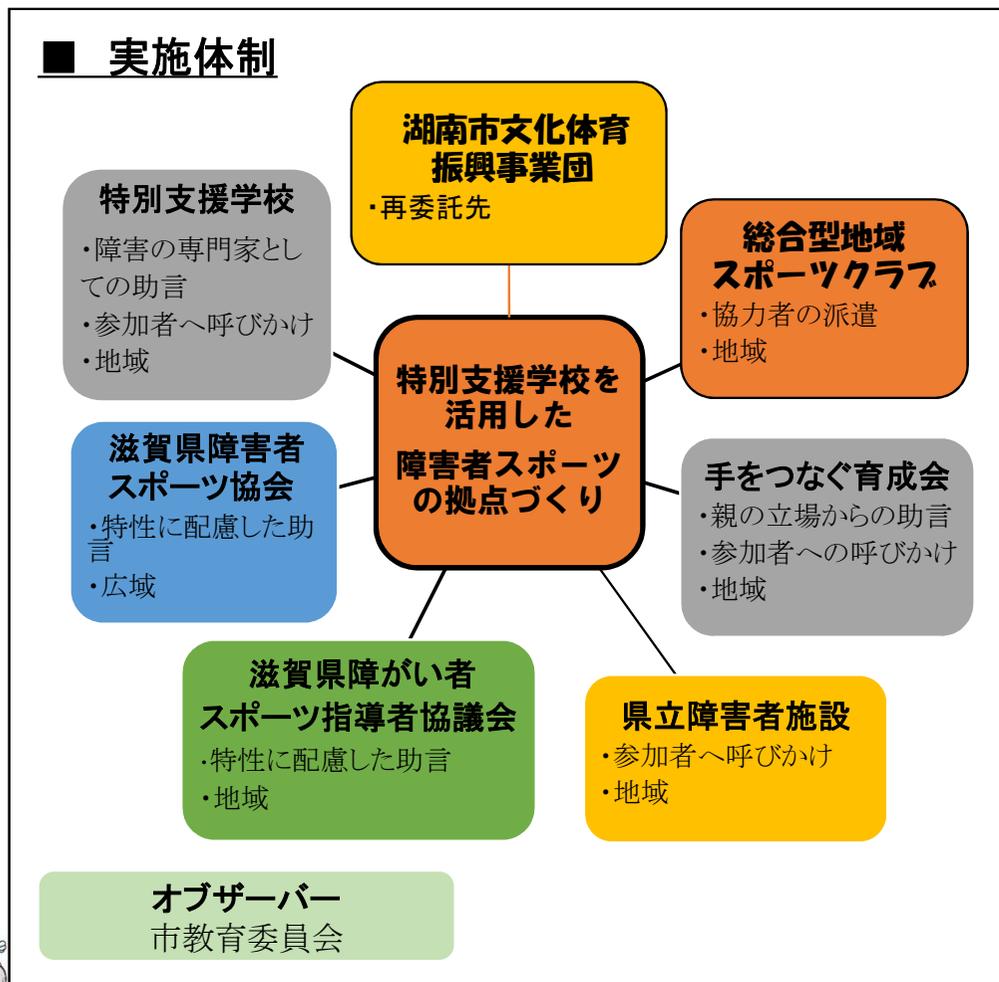
わたくしSHIGA
湖国の感動 未来へつなぐ
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
輝く国スポ・障スポ
2025





実施体制および実行委員会について

■ 実施体制



■ 実行委員会の位置づけ

- ・ 特別支援学校を拠点とするスポーツクラブ推進のため、クラブの運営について協議する。
- ・ 地域に開かれた障害者スポーツの拠点とするために、実施主体者(再委託先)にそのノウハウを還元するとともに、特別支援学校や地域の関係機関との関係を構築する。
- ・ 継続的に活動できるように地域の関係者が中心となってサポートする。

No.	所属団体等
1	滋賀県立三雲養護学校（特別支援学校：施設開放）
2	滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会
3	湖南省ちょいスポクラブ（総合型地域スポーツクラブ）
4	公益財団法人湖南省文化体育振興事業団(再委託先)
5	湖南省手をつなぐ親の会
6	甲賀市手をつなぐ育成会
7	滋賀県立近江学園（県立障害者施設）
8	滋賀県障害者スポーツ協会
オブザーバー	湖南省教育委員会生涯学習課
事務局	滋賀県文化スポーツ部スポーツ課（事務局）

3 事業内容

■ 年間スケジュール



実施時期	(1) 実行委員会		(2) 軽スポーツ教室		(3) 部活動指導者派遣	
	回	内容	回	内容	回	内容
6月		実施に向けての打ち合わせ、委員の推薦				
7月	第1回	事業目的・計画共有				
8月						
9月			第1回 (プレ)	ビンゴボール *感染症防止対策を図るために試験的实施		
10月			第2回	カローリング		
11月			第3回	ファミリーバドミントン	第1回	大縄跳び、ファミリーバドミントン
12月	第2回	進捗確認・課題等の情報共有・次年度に向けて	第4回	コップビンゴ、おじゃビンゴ		
1月			第5回	※中止		
2月	第3回	総括・次年度の計画	第6回	輪投げ、ストラックアウト		
3月						

湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
2025





■ 新型コロナウイルス感染防止にかかる対応(成果・課題)



1 申込

これまで当日自由参加可としていたが、申込制にして参加者の人数制限をする。

【課題】…事務方の負担増(申込まとめ等)。「いつでも気軽に」という訳にはいかない。

2 受付

参加者氏名、連絡先の記入。検温の実施。

【課題】…自分で記入できない人がいる。時間がかかる。

3 内容

三密回避の活動設定

【課題】…人との距離を取るのが難しい人や言葉の指示が難しい人等へのかかわり方が難しい。

4 体制・スタッフ

・第1回目を「プレ事業」として試験的に実施 (受付体制等スタッフの動き、注意・配慮点の確認)

☞ ○スタッフ間の共通理解とコロナ禍での活動実施への不安解消

・事業後に反省会の実施

☞ ○感染症対策だけでなく、障害者へのかかわり方など話をする機会を設けることができた。

4 今後の展望等【成果】



【コロナ禍・参加者獲得】

- コロナ禍の中で、「どうすれば事業を実施できるか」という視点で、実行委員会、関係者が検討しながら事業を実施することができた。
- 放課後等デイサービスの土曜事業の一環として、参加してもらうことができた。
- 近隣の施設やグループホーム等に事業周知を行うことで、障害者スポーツの重要性や、余暇活動の中のスポーツの重要を共有することができた。
- 特別支援学校の部活動への指導者派遣は、コロナ禍で1回の実施にとどまったが、生徒や職員に好評であった。また道具の貸し出しなどの新たな連携や協力の可能性を見出すことができた。

【スタッフの育成・ネットワークの強化】

- 事業終了後に、スタッフ間で反省会を行い、障害者へのかかわり方について専門家（県障がい者スポーツ指導者協議会）から助言をいただき、障害者理解に繋げることができた。
- 実行委員会に、会場となる市教育委員会からオブザーバーとして参画いただき、事業の趣旨を理解いただき、事業周知などの具体的な協力を得ることができた。
- 県教育委員会の「県立学校体育施設開放事業」のモデル事業として、事業主体者と学校間で施設の借用をスムーズに行うことができた。





5 今後の展望等【課題と方向性】

・参加者の拡大

- 特別支援学校や近隣の施設、グループホーム、放課後等デイサービス等への参加促進。
部活動への指導者派遣を通じて、軽スポーツ教室への参加に繋げる(卒業後の活動場所)。

・スタッフの確保

- 障害者スポーツに携わるスタッフの確保。

・財源の確保

- 地域で障害者スポーツに取り組む「総合型地域スポーツクラブ」として、県の事業を活用して継続。参加者の経費負担の検討。

・特別支援学校の施設活用

- 県教育委員会と連携しながら、地域のスポーツクラブ等が、特別支援学校の体育施設を活用できるよう働きかける。

・障害者スポーツのすそ野拡大の事業

- 障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるスポーツ活動の場として継続して実施する。